

没後八百年。時を超え、いま蘇る鴨長明の言葉。

琵琶の秘曲でつづる
平成絵巻「方丈記」

ゆく河の流れは絶えずして、
しかも、もとの水にあらず。
よどみに浮ぶうたかたは、
かつ消え、かつ結びて、
久しくとどまりたる例なし。
世の中にある、人と栖と、
またかくのごとし。

©HIGUMA

2016年 **3月26日(土)** 開場：13時30分 開演：14時
料金：2,500円(予約) 3,000円(当日)

<メッセージ> 大柴譲治 牧師

<出演> 伊藤哲哉 語り
塩高和之 楽琵琶
水野俊介 五弦ウッドベース
ヒグマ春夫 映像

会場：日本福音ルーテル むさしの教会

東京都杉並区下井草1-16-7

tel. 03-3330-8422 <http://www.jelc-musashino.org/>

宣伝美術：maiko

制作：吉岡孝子 主催：YUKIの会

[鴨長明] 1155年頃、下鴨神社の正禰宣慈宮の次男として生れる。保元・平治・源平の三つの乱で、政權が貴族から武家へと移る大変換期に生きる。和歌・管弦の才に恵まれ、琵琶は秘曲三曲を弾ける腕前。晩年出家して日野の方丈(3m四方)の庵で隠遁生活を送り「方丈記」を著す。1216年没。

☆琵琶の秘曲とは、最後の遣唐使 藤原貞敏が唐の唐承式より伝承された曲で、平安時代の雅楽では秘曲とされ、以後歴代天皇によって伝えられていった曲です。

伊藤哲哉 語り

桐朋学園演劇科卒
 ブログ「耳ざわり通信」<http://biwamimi.exblog.jp>
 昨年は日本国憲法、方丈記、小泉八雲、モーム、安房直子を朗読。
 [舞台] 星々の軌跡('15)、La・festa('15)、良寛('15)、銀河英雄伝説シリーズ、こまつ座、
 蛸川幸雄演出作品、YUKIの会 他
 [映画] 黒澤明、伊丹十三、森崎東、小泉真史、佐藤純彌、崔洋一 他
 [一人芝居] ガリバー・ウエハース、煙草の害について、白鳥の歌、おたる遊幻夜会
 (遠き橋懸り、直面)
 [語り琵琶] 耳なし芳一、桜の森の満開の下、かえるの平家ものがたり
 [TV・ラジオ・ナレーション・朗読] 多数出演。

水野俊介 五弦ウッドベース

札幌時代からのスカイドッグブルースバンドによりメジャーレコードデビュー。
 '80年よりボストン・パークリー音楽院に留学、本格的にジャズを学ぶ。'95年に「FOCM
 レコード」を設立し、現在までに11枚のCDをリリース。'05年にドイツのOzella Music
 よりCDがリリースされ、ヨーロッパを中心に展開される。
 '08年ベルリン国際映画祭ノミネート作品で楽曲が採用。'11年'14年ドイツハノー
 ファーでの現代美術展にてソロ演奏等を行い好評を得る。
 作曲や演奏、CD制作の他に、演劇・美術映像とのコラボレーション等幅広い活動を行
 い、独自の世界観を持つ音楽を追求している。
 OCMレコード <http://www.iris.ne.jp/~mizunos>

塩高和之 琵琶

文化としての琵琶楽を標榜し、雅楽の古典曲から薩摩琵琶の現代曲まで作曲・演奏の
 両面に於いて国内外で活動。国内では高野山、厳島神社、赤間神宮など琵琶に縁の深い
 地にて独演会を開き、海外ではシルクロードの国々でのコンサートツアーの他、ロ
 ンドンシティー大学、ストックホルム大学などでも演奏。
 薩摩琵琶でのソロ活動以外に、樂琵琶と横笛とのデュオREFLECTIONSとしても精
 力的に活動を展開。また様々な琵琶楽を紹介するべく琵琶楽人倶楽部を設立し、これ
 まで90回以上に渡るレクチャーを行っている。
 現在薩摩琵琶、樂琵琶両方で活動を展開する唯一の琵琶奏者である。
 '14年7枚目となるCD「The Ancient Road」発表。静岡県出身。
 塩高和之オフィシャルサイト <http://biwa-shiotaka.com/>

ヒグマ春夫 映像

映像が介在する表現に固執し「ヒグマ春夫の映像パラダイムシフト」を継続中。
 他に年一度のコラボレーション企画「ACKId」、「連鎖する日常/あるいは非日常・展」
 がある。
 '90年度文化庁派遣芸術家在外研修員ニューヨーク
 その成果発表を'08年「DOMANI・明日」展・国立新美術館。
 '02年「第5回岡本太郎記念芸術大賞・展」優秀賞。
 '04年個展「水の記憶・ヒグマ春夫の映像試論」川崎市岡本太郎美術館。
 '06年、'09年大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ。
<http://higuma.v333.ch>

©HIGUMA

この時代をともに生きる知恵を、宗教を超え宗派を超えて、 この教会に集い分かち合おう

『方丈記』に寄せて ———— ルーテルむさしの教会 牧師 大柴 譲治

かつて内村鑑三は言いました。「われは二つの”J”を愛する。すなわち”Jesus”(イエス)と”Japan”(日本)である」と。日本人の「感性」を生かしながら、どのように私たちは主イエス・キリストを愛してゆけばよいのでしょうか。このことは長く私自身の課題でもあり続けてきました。

このたび「神の時」が充ちるようなかたちで、教会で塩高和之さんの琵琶の演奏と水野俊介さんのベースの演奏、俳優の伊藤哲哉さんの語りによって『方丈記』を味わうことができるということは、東京での働きの最後に私自身の念願の夢が叶ったように思っています。ぜひ一人でも多くの方々に足を運んでいただきたいと願っています。上演日はちょうど受難週の、キリストが十字架にかかれた「聖金曜日」と、死からよみがえられた「復活日」の間の「聖土曜日」です。ここにも不思議なシンクロシティを感じます。「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。生るるに時があり、死ぬるに時があり、植えるに時があり、植えたものを抜くに時があり、殺すに時があり、いやすに時があり…神のなさることは皆、その時に適って美しい。(伝道の書3:11)と言わなければならないでしょう。

実は旧約聖書の中にも「空の空、空の空、一切は空である」(『伝道の書』口語訳聖書)という大変に東洋的な響きのする書物があります。ユダヤ教もキリスト教も、仏教やヒンズー教同様、シルクロードでつながるアジアに由来する宗教なのですから、響き合うのは当たり前なのかもしれません。ここで「空」と訳されているヘブル語は「ハベル」という語で、「ため息、はかなさ」を意味する言葉です。創世記4章によると、アダムとエヴァの子供であったアベルは兄カインによって殺されてしまうのですが、この「アベル」という名前は「ハベル」に由来しています。アベルは「ため息」のようにはかない命だったのです。生きるということは実に哀しいことですね。私たち人間の現実を振り返ってみると、「出るのはため息ばかりなり」と言うことになりましょう。

鴨長明の詠う声の中にも深い悲哀を感じます。「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし」。教会での琵琶と声と映像による『方丈記』のコラボレーションです。ご期待ください。



西武新宿線「鷺ノ宮駅」より徒歩11分、JR中央線「阿佐ヶ谷駅」より徒歩15分
 □バス利用:「白鷺1丁目」バス停下車、バス停より信号西へ70m
 (車内放送案内あり)
 ■西武新宿線「鷺ノ宮駅」より関東バス「阿佐ヶ谷駅」「荻窪駅」行
 ■西武池袋線「中村橋駅」より関東バス「阿佐ヶ谷駅」「荻窪駅」行
 ■JR中央線「阿佐ヶ谷駅」「荻窪駅」北口より関東バス「中村橋」「練馬方面」行